

平成24年2月20日  
国際物流戦略チーム第17回幹事会  
資料7

# 京都舞鶴港 日本海側拠点港選定を踏まえた取組戦略

平成24年2月  
京 都 府

# 日本海側拠点港の選定結果

## ●総合的拠点港<5港>

「新潟港」、「伏木富山港」、「下関港」、「北九州港」、「博多港」

## ●日本海側拠点港<19港・28計画>

国際海上コンテナ	「博多港」、「北九州港・下関港」、「新潟港」、「伏木富山港」、「秋田港」、「伊万里港」、「境港」、「舞鶴港」、「金沢港」
国際フェリー・国際RORO船	「博多港」、「北九州港・下関港」、「敦賀港」、「稚内港」、「伏木富山港」、「舞鶴港」
国際定期旅客	「博多港」、「北九州港・下関港」、「長崎港・佐世保港」
外航クルーズ(定点クルーズ)	「博多港」、「長崎港」
外航クルーズ(背後観光地クルーズ)	「小樽港・伏木富山港・舞鶴港」、「金沢港」、「境港」
原木	「境港」、「浜田港」
LNG	「直江津港・新潟港」、「石狩湾新港」
リサイクル貨物	「酒田港」

## ●拠点化形成促進港<4港・4計画>

「留萌港」(原木)、「能代港」(リサイクル貨物)、「七尾港」(原木)、「唐津港」(外航クルーズ(背後観光地クルーズ))

## ●フォローアップ

今後、1年に1回程度委員会を開催し、計画の進捗状況等についてフォローアップを行っていくこととする。



# 国際フェリー航路誘致計画

中国航路 週4便  
韓国航路 週1便



# 国際フェリー航路誘致の取組

平成22年6月2日

中国上海市と関西広域連合(担当委員:京都府知事)との間で観光交流協力の樹立に関する合意書締結

平成23年7月26日

韓国浦項市と京都府及び舞鶴市との間で経済交流等の推進に関する協定書締結

平成23年11月2日

第1回京都府複合一貫輸送対策研究会(学識経験者、国・府・舞鶴市、船社、荷役業者等で構成)開催

平成24年度(予定)

- ・対岸諸港との航路開拓の取組(トライアル等)の推進
- ・受入環境整備

京都府はフェリー会社(など)と連携し、京都舞鶴港(舞鶴市)と韓国、中国を結ぶ高速フェリーの定期航路を新設する方針を固めた。来年度に試験運航を始め、2015年までに開設する。大阪港発着のフェリーに比べ所要時間の短縮を目指す。関西への観光客の誘致拡大を狙うほか、工業分野や雑貨などの輸出入の利用を促す考えだ。

舞鶴港の国際フェリー航路は初めて。京都府は旅行社や商社、メーカーなど十数社で構成する企業連絡会議をこのほど設立し、航路開設に向けた準備に着手した。

韓国・浦項市の浦項港、中国・蘇州市の太仓港をそれぞれ結ぶ計画で、週に計5回程度の運航を模

## 京都府と企業、来年度に試験運航



府は中国や韓国からの集客に期待する。フェリーを利用すれば、関西の縮める見通し。

浦項は韓国の鉄鋼最大手ポスコが立地し、近隣に観光地の慶州がある。所要時間は浦項は約12時間、太倉は約32時間を予定する。釜山や上海を結ぶ大阪港のフェリーに比べ、3〜4割短縮できる見通し。

## 観光・輸出入に新ルート

土産物を大量に購入して持ち帰りたい。関西から韓国・中国への観光需要も見込め。

物流面では自動車部品やパレル製品、食品などの運送を見込む。京都縦貫自動車道が14年度に全面開通すると、京都市から天津まで105分かかる所要時間が90分に縮まる。

京都舞鶴港は新しい埠頭が10年に運用を開始している。10年の貨物量はオーストラリアからの石灰の輸入増が寄与し、09年比で33%増の1000万トンに到達した。アジアとの取引も同時に増加。10年の韓国との取引量は、鉄鋼の輸出などがけん引し、約3万8000トンと09年比で65%の大幅な伸びを示した。

近畿運輸局によると、

# 舞鶴—韓中高速フェリー

15年までに定期便

平成23年10月5日付  
日本経済新聞

関西では大阪港と神戸港が中韓へフェリーを運航しているが、週6便にとどまると、中韓に近接する九州の素直は、その約10倍の週60便程度だ。

大阪府によると、府は西国際空港の輸送能力に訪れるアジア客は10年までは限界があるため、外貨入客の受け入れ体制を整備するためにも、舞鶴港1割がフェリー利用とみられる。京都府は関係している。



# 国際海上コンテナ航路誘致計画



# 国際海上コンテナ航路拡充の取組

平成23年7月12日

中国大連市と京都府との間で経済交流等の推進に関する覚書締結

平成23年7月25日

ロシアナホトカ市と京都府との間で経済交流等の推進に関する覚書締結

平成24年度(予定)

- ・国際海上コンテナ航路の拡充(トライアル等)
- ・受入環境整備

京都府  
**中韓口と経済交流拡大**  
3都市と覚書締結 舞鶴港を活用

京都府は26日、中国、韓国、ロシア3カ国の都市と京都舞鶴港(舞鶴市)の活用を軸にした経済交流覚書を結んだと発表した。航路の拡充を通じた企業間取引や観光交流の拡大を促す。阪神港などと比べてロシアなどに近い利点をいかし、観光などの需要を取り込む。山田啓二知事が中国の大連市、韓国の浦項市、ロシアのナホトカ市の市長らと締結した。それぞれ市はいずれも港を持っている。浦項市との協定書では、観光交流や修学旅行などの相互交流について検討すると明記した。近くには世界遺産を多く抱える慶州があり、神社仏閣が集まる京都市などとの観光交流を期待する。観光船の定期的航路ができれば、アジアを中心とした集客力が高まる。大連市とは企業の相互進出、海外販路の開拓に向けた支援を確認した。大連市には関西の企業が多く進出しており、物流などの後方支援を一段と強める。ナホトカ市とは、コンテナ船などの航路新設を盛り込んだ。舞鶴港はロシアとの間で、製材や中古自動車の輸出入が多いが、一層の取引拡大を目指す。京都舞鶴港には、約466億円を投じた新しい埠頭が2010年に運用を始めており、大型船の受け入れが可能となっている。

平成23年7月27日付  
日本経済新聞



# 外航クルーズ寄港誘致計画

年間14回程度の寄港

小樽港

伏木富山港

京都舞鶴港



# 外航クルーズ寄港誘致の取組

平成23年8月8日

小樽港、伏木富山港、京都舞鶴港の連携による「環日本海クルーズ推進協議会」設立準備会開催

平成23年11月22日

京都舞鶴港クルーズ誘致協議会設立

平成23年12月21日

小樽港、伏木富山港、京都舞鶴港の連携による「環日本海クルーズ推進協議会」第2回設立準備会開催

平成24年2月10日

小樽港、伏木富山港、京都舞鶴港の連携による「環日本海クルーズ推進協議会」第3回設立準備会開催(予定)

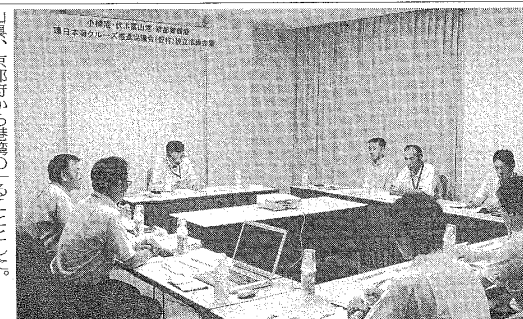
平成24年度(予定)

- ・環日本海クルーズ協議会設立、共同プロモーションの実施
- ・地元誘致協議会による受入体制の強化
- ・受入環境整備

小樽・伏木富山・舞鶴が連携  
共同で客船誘致へ

環日本海クルーズ推進協

小樽(北海道)、伏木富山(富山)、京都舞鶴(京都)の3港が連携してクルーズ客船の誘致などを目標とする「環日本海クルーズ推進協議会(仮称)」の設立準備会議が8月9日の両日、東京で開かれた。今年度内に3港の港湾管理者と関係自治体などで同協議会の設立を目指すことを確認、併せて今後の事業展開などを詰めるため年内にも再び準備会を開くことを決めた。2日にわたって開かれた会議には、小樽市、富山県、京都府から港湾の担当課長らが出席。初日の8日には、外国クルーズ船社の販売代理店(GSA)と意見交換した。3港連携について、GSは「Aからこれを肯定する見解が出たことを受け、3港は共同で事業展開しながら積極的なアプローチをすることを確認。GSは再度準備会議を開いて細を詰めるため、年内に正式に立ち上げる方向で調整を進めることで意見が一致。加えて、共同プロモーションの作成準備協議会の事業内容を詳細に詰めるため、年内に再度準備会議を開いて細を詰めることとした。」



「環日本海クルーズ推進協議会」の設立準備会議

平成23年8月11日付日本海事新聞

## 舞鶴港へクルーズ客船を誘致協が設立總會



舞鶴港への外航客船誘致などを目的とした「京都舞鶴港クルーズ誘致協議会」の設立総会が21日、舞鶴市喜多の舞鶴21ビルで開かれ、関係者ら約40人が参加した。中国などからの観光客増加やクルーズ客船の人気の高まりを受け、クルーズ客船を誘致し、クルーズ客船を舞鶴市産業振興部に呼びよせ、府や府北の自治体、観光、交通振興会など約30の団体で構成する協議会では、振興会の入江一郎理事を選んだ。

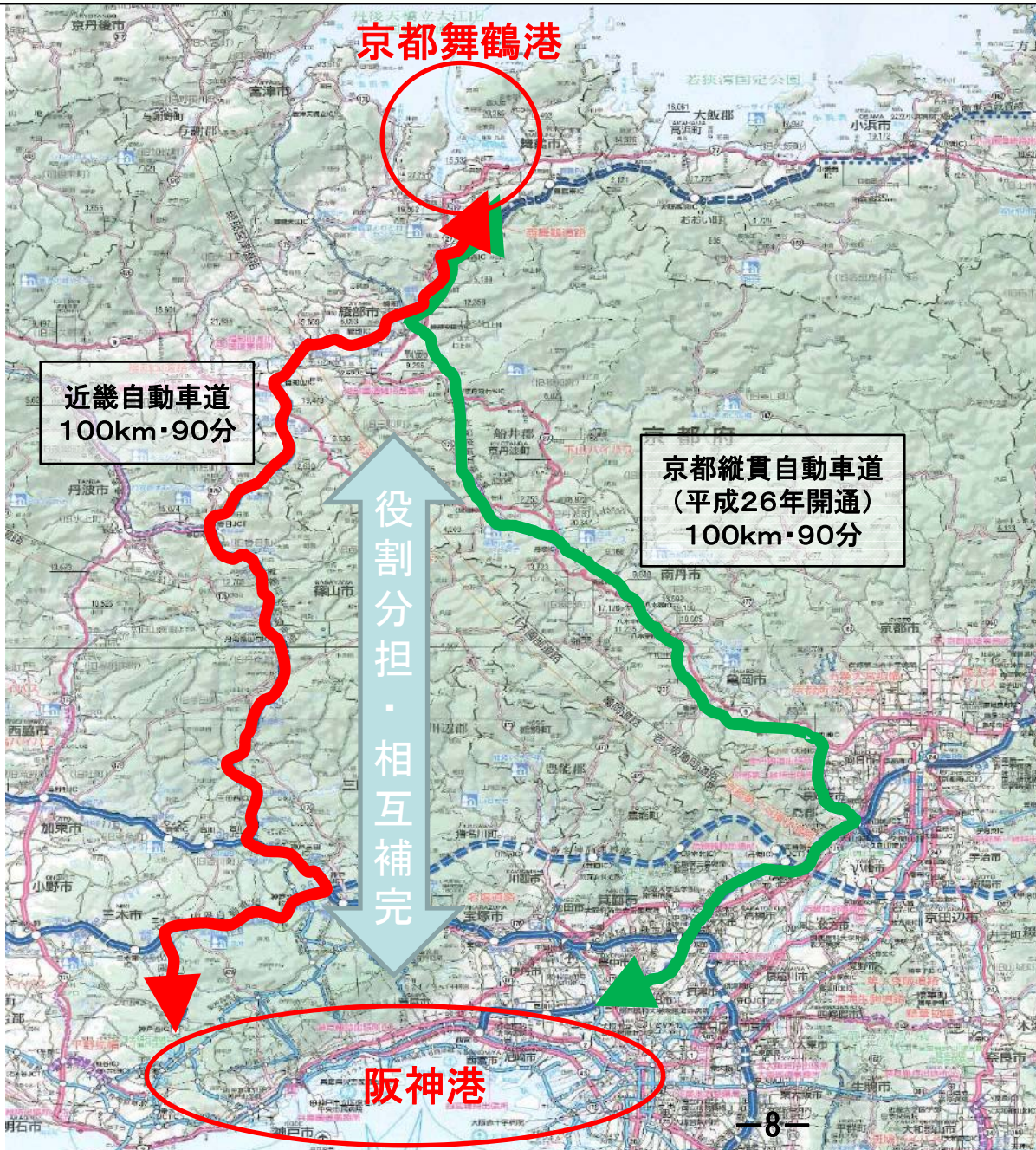
## 地域活性化へ意気込み

平成23年11月23日付  
毎日新聞

府港関係者が集まった「京都舞鶴港クルーズ誘致協議会」の設立總會。舞鶴市喜多の舞鶴21ビルで開かれた。舞鶴市長の藤森和也は「府民の期待は大きいく、それに応えたい」と意気込んでいた。



# 阪神港との適切な役割分担と相互補完



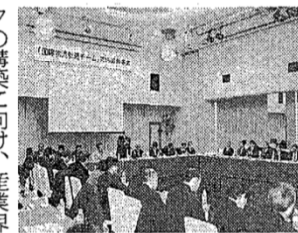
## 舞鶴港の機能強化策検討へ

### 国際物流戦略チームが幹事会

関西の産学官で構成する国際物流戦略チーム（本部長・下妻博関西経済連合会会長）の幹事会が27日、大阪市中央区のKKRホテル大阪で開かれ、今後の進め方として日本海側のゲートウエイ機能強化策の検討やインランド・ボートの設置を推進することなどを決めた。

幹事会には、構成機関から約60人が出席。国際コンテナ戦略港湾に選定された阪神港を国際戦略総合特区（仮称）として提案することや、神戸港や大阪港、関西国際空港の貨物取扱量や貿易額が回復傾向にあるなど国際物流を取り巻く最近の動向を報告。

今後の進め方では、国際物流の強化に向けた取り組みとして関西地域における総合的な国際物流戦略の策定や阪神圏における港湾、空港、道路の広域的な運営に向けた枠組みの検討などに取り組み。西日本のコンテナ貨物ネットワークを



の構築に向け、産業界や荷主、船会社、物流事業者間の情報共有、さらに内陸部でコンテナ貨物を集荷する「インランド・ボート」の設置・拡充を推進するなど阪神港の機能強化に向けた支援も整を進める。

平成23年1月31日付  
建設工業新聞



# 日本海側における防災拠点機能の強化



京都舞鶴港は、海上自衛隊地方総監部(全国5カ所)、管区海上保安本部(全国11カ所)の双方が立地する、我が国唯一の港湾

